

『ひょうたんなまずと思い出そうとしても忘れられない安全旗』の関係



みなさん、いつもいつも安全作業ありがとうございます！ところで、テクアでは毎年3月に安全旗に安全の寄せ書きをしますが、何を書いたか各人思い出せますか？

『う～ん、とりあえず何か書け！』といわれたからとりあえずなんか書いたような。。覚えとらん！』なんていう正直者が結構いるのではないかと思います。人の命を守らなければならない作業現場においても、法令上必要なので義務的に正論を書いておしまい！って言う記憶に残らない安全書類をたくさん書きなぐっていませんか？くれぐれも凡事徹底をお願いいたしますね！

1日中、作業者の意識に『安全』を落とし込むことは、脳波の特質上難しいかもしれませんが、ふと、危険を予感した瞬間とか作業に行き詰まりを感じた瞬間に『いかん！いかん！』と自分を思い返し、軌道修正をかけてもらえるような、印象的な安全言葉があればいいな～いつも思っていたのですが、わたくし、ついにそれ発見いたしました！！

上の画像を見てください！左はいつものテクアの安全の寄せ書きですが、右はななんと室町時代の安全の寄せ書きです。それも四代将軍の足利義持が如拙という画僧に描かせ、京都中の高僧に寄せ書きをさせたという物凄い格式高い寄せ書きです！現代でいうなら、総理大臣が国会議事堂に各分野の日本の安全の最高責任者を集めて寄せ書きさせたようなものです！

そしてここからが本当に凄いのですが、なんとこの絵のテーマが『**つるつるのひょうたんで、ぬるぬるのナマズが押さえられるか？**』なんです。(爆笑)。そしてそれぞれの高僧の寄せ書きがまたスゴイ。『ナマズが竹を登るまで待っておけ！』とか『ひょうたんに油をぬっておけ！』とか『ナマズの吸い物つくろうぜ！』とか、安全の寄せ書きが本当にこんなで良いのか！と超本気な熱い安全マンにはお叱りをいただきそうですが、これでいいのです。この寄せ書きは、作業者の記憶に深く安全のイカリ~~氷~~を降ろすようにユーモラスに巧妙に仕組まれているのです。

夏場の屋根裏空調機、長い階段を延々と登り続け、やっと現場に辿り着いたら雰囲気40度。もう汗だらだら。こんなとき要領よしのH社長は作業者の体力を考慮に入れ、必要最低限の工具を分担して搬入した。しかしこれが大誤算。羽根車を引き抜きたいのに、小型6番のギアプラーではまったく歯が立たず。ところがH社長、1度熱くなると暑さも忘れ、気合1本で問題解決しようとする性格。あーでもない、こーでもないとトライしまくって、結局抜けずじまい。そばで成り行きをじっと見ていた新人A君が何気に『8番のギアプラー僕取ってきましょうか？』と一言。この一言がシロウトながら、あまりに核心を突いているがゆえに恥ずかしいやら、やり場の無い怒りがこみ上げてくるやら。

こんな状況の絵を安全旗の真ん中に張って、皆さんからのコメントをもらう。『もう少し熱くなれば羽根車も膨張してシャフトから抜けたのにね～』とか『ところでハンドパワーは搬入してませんか？』とか『君のおサル的人格が僕は好きだ！』とか『いよ～！ 二流凡事徹底社長！』とかゲラゲラ笑いながらみんなで寄せ書く。如拙の描いたこの『瓢鮎図』はまさにこんな寄せ書きなんです。

ただでさえぬるぬるして捕まえづらいナマズをこどもあろうにつるつるのひょうたんで一心不乱に押さえようとしているこの男の愚かしさは、あくまでも6番のギアプラーにこだわって、必死で羽根車を引き抜こうとしている私の姿と重なり合うと同時に、傍から見てゲラゲラと笑いながらコメントしている皆さんも、現場に入ってしまうと案外こういう状況に陥っていませんか？ということ表現しています。

将棋の谷川名人によると、棋士は『勝負師』と『芸術家』と『研究者』の三つのキャラクターをバランスよく持っている人が強いとのこと。あまりにも芸術家の部分が強すぎると、ちょっと悪い手をさした時に嫌気が差してしまっただ白になる。しかし勝負師の部分が強すぎても、その一局だけ勝てばいいという、見ていて面白みにかけ価値のある将棋がさせない。また研究者の部分が強すぎても前例のデータに偏りすぎて、まったく新しい手を打ち出していきような創造性に欠け大成しないのだそうです。

我々の現場も『段取り』『発想』『熱意』が局面を打開していく3大要素だと思いますが、どれか一つのキャラに偏っているのは、現場という深遠で捕らえどころが無く矛盾に満ちているナマズを捕獲することは難しいと思います。ひょうたんという**こだわり**を捨て、自在に手を変え品を変え対応していくことが大切なのではないのでしょうか？

もし現場で行き詰まりを感じたら**もしかしたら俺今ひょうたんなまず状態？**を合言葉に軌道修正をかけ、明日からも安全作業をお願いいたします！！

災害はひょうたんなまず状態からのあなたの強引な一撃で発生すると言う事をお忘れなく!!

感謝！ 羽原篤史

